

平成16年度 **長崎国際大学入学試験問題**  
一般学力B日程入試  
**国語〔国語・国語〕** (100点 60分)

**注意事項**

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、21 ページあります。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マーク（印）しなさい。

**受験番号欄**

受験番号（数字）を記入しなさい。

正しく記入されていない場合は、採点できないことがあります。

**氏名欄**

氏名・フリガナを記入しなさい。

**志望学科欄，解答科目欄**

該当する欄にそれぞれマーク（印）しなさい。

- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマーク（印）しなさい。例えば 



 と表示されてある問いに対して と解答する場合は、次の（例）のように**解答番号 10**の**解答欄**の の欄にマーク（印）しなさい。

（例）

解答 番号	解 答 欄				
10					

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験終了後、問題冊子は机上に残しておきなさい。

**第1問** 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

戦後の目覚ましいテクノロジーの進歩により、テレビジョン、ビデオなどの映像からコンピュータ・グラフィックスの電子映像メディアも新しい表現として脚光を浴び、テクノロジー・アートとしての市民権もアツク得した。

その結果、人類が嘗々と追い求めてきた美への欲求は自然から離れ、もはや自然から学ぶものはないとさえ、アーチストをして言わしめたのである。この(9)傲マンなアーチストの姿勢の背景は二十世紀科学の

**a** 発展とそのかりそめの恩恵に支えられていたのである。

このように二十世紀美術は写実主義を捨て、自然を唯一絶対な存在と見なし、人間を

**b** 姿として写しとる自然主義も否定し、A科学的唯物論的な無機質な抽象に向かつて突き進んだのである。

現在、私たちが科学技術の神話にどっぷり浸っているといっても、今さら車や列車、海外旅行ではジェット旅客機に乗らないわけにはいかない。こうした便利な移動手段は、人間の叡智えいちを長い時間積み重ねて、勝ち得た人類共有の財産であるから、もちろん、当然の権利として誰もが、自由にこれを利用することができる。

問題は、科学技術の恩恵によってこうした私たちの生活が便利になった反面、自然環境の破壊が逆比例的に進行しているということである。一個人の利害や地域や国の利益を優先させるために、その裏で自然という

**c** 地球環境が犠牲となっている現実を、私たちはあまりにも知らなすぎたのだ。そればかりでなく私たちは形の本質を忘れ、工業製品やモードの(エ)奇イな人工的形体をつくり続け、テレビやメディアの映像が日常に入り込み、自然に背を向けた芸術やデザインの造形活動に(オ)ケイ注してしまっているのではないか。

1

かつて私たちの祖先は、自然の美しさに目を奪われ、自然を(カ)倣しながら裝飾することの愉しさを知り、絵画や彫刻によって創造の喜びを知ったのである。現在の抽象絵画や現代造形の原点も、とどのつまりは自然の美に在るといふ創造の基本理念を、忘却してしまったのではないだろうか。

2

もうひとつ、自然と人間の関係が薄れた理由は、私たちが自然と接する機会が少なくなり、自然のすばらしさや美しさを実感することさえ、忘れてしまったということが挙げられる。IT(情報技術)が産業の中枢となった現代社会では、コンピュータや映像メディアが(キ)氾<sup>ル</sup>ランし、人々は自然との直接体験よりも、プリント・メディアや映像メディアを通して二次元的な情報選択との接点が圧倒的に多くなり、また、こうした情報収集で満足してしまうのである。さらにテレビゲーム、コンピュータ・グラフィックス、インターネットの映像情報が、現実との境界を(ク)曖<sup>ミ</sup>マイにしてしまった映像のバーチャル化が、人々に自然を受け入れる余裕さえ、見失わせてしまったのである。

3

そのような現代人でも旅にでて偶然自然の美しさに気づくことがある。悲しいかな、その美しさはテレビやメディアで見る自然と二重写しとなって、やはり自然の美しさは(ケ)フク製にすぎないと悟るのである。そこにはB実体験した感性も、強力なデジタル万能の映像メディアに吸引され、同化されてしまつのである。

4

科学が発達していなかった工業化以前の社会では、道具や生活用品はすべて手づくり生産であり、デザインという概念はもちあわせていなかった。道具や器の形は必然的に使いやすく、使用目的に(コ)合<sup>フ</sup>合<sup>フ</sup>したものでなければならず、結果的に長い時間をかけて少しずつ(カ)あ<sup>ハ</sup>形に改良されていった。これは機能を追求した形となり、結果的にどれも美しいのである。

こうして生々(せせ)流(りゅう)テ(て)ン(ん)をくり返しながら、絶えず **d** 大自然の法則によって、万物の形が形成されていくのである。自然を支配する **e** 秩序の法則が、それぞれの形を美しくつくりあげるように、もっと人間は(せせ)謙(けん)キ(き)ヨ(よ)になってこの自

然界の(せせ)造(ぞう)力(りき)の原理を、ここで再び見直すべきではないだろうか。

つまり自然がつくりだす形が美しいのは、自然の法則に逆らわず、気の遠くなるような長い時間的な(せせ)ケ(け)イ(い)緯(い)を(せせ)経(けい)て、少しずつ改良されていく機能を満たした形であり、結果的に **あ** 形となるから、ということが出来る。それゆえ、私たちはもっと自然の存在を真摯(しんし)に受け止め、かつて先人たちが自然を美の発想の原点としたように、自然がつくりだした形や色・テクスチャから形の美を探るべきであろう。

(三井秀樹『形の美とは何か』NHKブックスによる。なお出題にあたって一部手直しした。)

問1 傍線部(ア)～(セ)に当る漢字を含むものを、次の各群の のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は  ～  。

(オ) ケイ注

ケイ斜  
ケイ察  
半ケイ  
ケイ続  
統ケイ

(ア) カク得

カク保  
カク心  
漁カク  
企カク  
カク新

(カ) モ倣

モ服  
繁モ  
モ様  
モ屑  
雲モ

(イ) キ求

キ待  
キ礎  
キ数  
放キ  
キ積

(キ) 汎ラン

空ラン  
遊ラン  
ラン干  
ラン費  
ラン巢

(ウ) 傲マン

マン画  
緩マン  
円マン  
マン延  
欺マン

(ク) 曖マイ

マイ蔵  
愚マイ  
マイ拳  
マイ週  
精マイ

(エ) 奇イ

イ常  
イ反  
方イ  
イ凶  
脅イ

9 (ケ) フク製

増フク  
フク面  
フク数  
幸フク  
フク用

10 (コ) 合子

誘子  
手辱  
放子  
子略  
子延

11 (サ) 流テ

発テ  
テ削  
テ回  
祭テ  
テ呼

12 (シ) 謙キヨ

キヨ留  
辞キヨ  
キヨ数  
根キヨ  
キヨ絶

13 (ス) 造カ

カ格  
カ合  
負カ  
看カ  
カ幣

14 (セ) ケイ緯

ケイ過  
ケイ譜  
ケイ留  
ケイ勢  
崇ケイ

問2

文中の

あ

には同じ語句が入るが、前後の文脈からここに入れるのに最も適当なものを、次の

のうちから

一つ選べ。解答番号は

15。

意味のない

規則性のない

簡便さのない

装飾のない

無駄のない



問5 二重傍線部A「科学的唯物論的な無機質な抽象に向かって突き進んだ」とあるが、これに関する説明として**適当でない**ものを、次の 〃 のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

人間はつまるところ物質から成り立っているものであり、人間の組成を分子レベルで解明することにより生命の神秘さも説明可能である、と考えられるようになってきた。

人間はそれぞれ個性的な存在であるが、そうした個性の違いを捨象し、抽象的な人間一般としてとらえられるならば、何ら大差はない、と考えられるようになってきた。

人間は科学の力によって地球のみならず、宇宙に向かって進出しつつあるのだから、科学的合理性こそが人間にとっての価値基準だ、と考えられるようになってきた。

人間にとつての美とは、科学時代の今日においてはもはや、決して科学的真理や合理性と異なる特別な価値の領域ではあり得ないのだ、と考えられるようになってきた。

人間とは自然に対して畏怖を感じ、宗教や芸術などという科学的合理性のみでは説明しきれないものにも関わらずにはいられないのだ、と考えられるようになってきた。

問6 二重傍線部B「実体験した感性も、強力なデジタル万能の映像メディアに吸引され、同化されてしまつ」とあるが、それ

はどのような事柄を指しているか。最も適当なものを次の 〃 のうちから一つ選べ。 解答番号は 24。

自然の美しさをあますところなく表現した油彩の風景画よりも、カラー写真に写し撮られたものの方に美的な価値を認めること。

自然を体験することが今日ではきわめて乏しくなってきたので、映像を見ることで自然を実体験したつもりになってしまつこと。

自然の雄大さや美しさを実体験しても、それをメディアによる精密な映像と比較して、それほど感動を覚えなくなっていること。

自然の美や雄大さなどは決して映像メディアでとらえることができないと考えて、メディアによる自然への接近を断念すること。

自然を体験することが、交通の発達などにより容易になってきたので、自然の美や雄大さを体験することが安っぽくなつたこと。

**問7** 問題文の内容に即して標題をつけるとすれば、どのようなものがよいか。最も適当なものを次の ㄱ のうちから一つ選

べ。解答番号は 

25
----

。

「抽象から具象へ」

「流行とパターン」

「理念の形と現実の形」

「自然に学ぶ美しい形」

「定形と非定形」

第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

好んで小説に書かれるものに女の一生というのがあって、そこでは一人の女が運命に(ア)ホソ弄されるかそれに抗して闘うかしたあげく死ぬことになっている。これが男であるよりは女である方が小説に向いている理由は別に考えることにする。その種の小説では何物かが女を痛めつけて(あ)七転八倒させる筋書きになっていて、その何物かを呼ぶのに女の運命という名前が用意されている。読者の方もこの(イ)お膳立てに安心した上で、女の運命を追うことで小説の中に没入する。読者を捉えて放さないのは要するにこのあとどうなるだろうかという興味である。予想通り悪いことが次々と起こり、最後は(ウ)判定の事実の如く女の死を見て読者は同情しながら安心する。Aその安心するということが大事なので、これもカタルシスの一種だとすれば、それは用意した涙を予定通り(エ)ハイ泄する快感に關係があるにちがいない。しかしそれで読者は鴉外の『妄想』の主人公が要約しているような、「世界は有るよりは無い方が好いばかりではない。出来る丈悪く造られている。・・・一人一人の人は一箇一箇の失錯で、有るよりは無いが好いのである」というショーペンハウアー流の哲学に共鳴するとは限らない。むしろ最悪に近い人間の運命を見ることで自分だけはどうではあるまいとひそかに(カ)アン堵するのである。

小説を書く人間の方は、このアン堵に加えて最悪の運命の中で誰かを(イ)こつきまわす楽しみを味わうことができる。作者が主人公に(カ)深シなる同情を抱いていたとしても、誰かに同情を抱けること自体が楽しみであるという事実は否定するわけにいかないからである。特に女の作者には運命というより作者の筆先で一人の女を痛めつけることを好む傾向がある。

事実こういう女の一生があったのでそれを忠実に記録したにすぎない、というのは(ウ)逃げ口上としては無効である。小説の作者は何か憑かれて語る無名の語り手と化して自分の(エ)姿を掻き消すというわけにはいかない。その女の一生があったことが事実なら他の女の一生があったことも事実である時、なぜこれを探ってあれを棄てたかは作者の(カ)選タクであって、そこから

あとは作者が運命の神になる。神はその女を操ったことに責任を負わなくてはならない。意地の悪い読者は主人公を操る運命の糸の出所へと目を移し、糸を動かしている作者の顔を覗きこむのである。この時運命の神はその正体を顕わす。勿論（ ）そこにいるのは神になりたかつただの人間にすぎない。そこで思い出されるのは、近代小説そのものが、運命を決めることで人間を動かすギリシア的な神が、言葉で自己を顕わすとするユダヤ的な神が、このどちらかの神に人間がなるための発明だったということである。ここでは前者を問題にしている。

運命を専門に取り扱つのはギリシアでは女の神で、モイラと呼ばれていた。これはもともと割り当ての意味なので、例えば（キ）ジゴ命の割り当てが少なければその人間は早く死すべきものとなり、碌でもない運を割り当てられた人間は碌でもない人生を送ることになる。すると、この運にしても、分配されるべき全体は一頭の牛のようなもので、よい部分の肉は限られていて一部の人間にしか割り当てられないということなのだろうか。その辺はわからないが、ともかく運命とは分け方の問題であるから、女神モイラの a には次の四つが考えられる。

- 一、人の値打ちに比例して、その受け取るにふさわしい運命を割り当てる。
- 二、女神の好みに応じて、つまりお気に入り人間にはよい運命を、気に食わぬ人間には悪い運命を割り当てる。これはオリュンポスの神々が『イーリアス』の登場人物たちを動かした時のやり方であるが、一の変種とみなしてよい。
- 三、**（お）**（公平無私に、例えば籤くじを引くかサイコロを投げるかして割り当てる。これは長い目で見れば各人が等しい確率で運命の配給を受けて平等に扱われることになる。
- 四、つねに平等に分配する。といってもつねには事実に反するのでこれも長い目で見ればということになるほかなくて、それならば三の方式を採るのと大差ない。

そこで、一、二をAとして、三、四をBとする。

b

がAの方式を採ることはまず間違いない。それはそれでよいが、操り人形の糸が見えるような具合に運命の女神、実は作者の手付きが見えるのは興醒めなのである。通俗小説というものがあるとすればこれがその通俗性の一要素になる。それでメロドラマにはすれ違いというものがふんだんに用意されている。一方英雄と呼ぶに足る人物が出てくるギリシア悲劇ではこの人物たちは一見その意志と能力に物言わせて運命を(シ)チヨウ越しているかの如く行動する。そして伯仲する英雄同士がぶつかれば勝負はわずかな能力の差か、それもなければ運とでもいうほかないもので決まる。この時作者はアキレウスとヘクトールの運命を黄金の秤にかけて決めたゼウスに倣<sup>なら</sup>うか、サイコロを投げるかしなければならぬ。こうして人間には測れない紙一重の差やまつたくの偶然が生と死を分けるのを見せられた時、人は初めて運命というものを感じる。それは英雄や巨人が九分九厘まで自由意志で(シ)コウ築した世界の残りの一厘を受け持つが、この世界を一挙に(コ)粉サイする雷撃となるかもしれないものである。

c

小説はギリシア悲劇とは違つてここまで( )高圧の世界を取り扱つには向いていない。そこで普通はただの人間が出てきて一見自由な意志で選択し、行動する。作者がこの人間をつまずかせたり押しつぶしたりするための仕掛けを用意することは最初に述べた通りである。この仕掛けも運命であるが、その前に作者はもつと本質的な運命を登場人物に割り当てている。それは彼らの一見自由な選択と行動を左右している性格や能力である。彼らはそれを財産等々とともに親から受け継いでいるはずでこれらのすべてが小説に登場してきた時の彼の手持ちの運命になる。そこでバルザックを始め昔の小説家はこの運命の目録を詳しく示すことにまず気を配った。

(倉橋由美子「運命」あたりまえのこと』朝日新聞社による。なお、出題にあたって一部手直した。)

問1 傍線部(ア)～(コ)は熟語の一部である。これに当たる漢字を含むものを、次の各群の　　のうちからそれぞれ一つ

ずつ選べ。解答番号は 26　　。

34 (ケ) コウ築

振コウ　コウ釈　海コウ　コウ入　虚コウ

30 (オ) 深ジン

ジン力　ジン為　ジン問　ジン大　ジン義

26 (ア) ホン弄

ボン裁　ボン語　ホン走　ホン訳　ホン論

35 (コ) 粉サイ

サイ断　返サイ　詳サイ　快サイ　玉サイ

31 (カ) 選タク

自タク　タク送　タク植　採タク　タク鉢

27 (イ) 卍定

キ何　キ発　キ則　キ婚　キ道

32 (キ) シユ命

喜ジュ　伝ジュ　ジュ教　ジュ術　ジュ要

28 (ウ) ハイ泄

ハイ諧　ハイ物　ハイ気　ハイ礼　ハイ芽

33 (ク) チョウ越

緊チヨウ　チヨウ望　チヨウ然　チヨウ躍　チヨウ点

29 (エ) アン堵

アン出　アン記　アン号　アン摩　アン泰

問2 文中の波線(あ)～(お)部分の熟語の意味として最も適当なものを、次の各群の　　のうちからそれぞれ一つずつ

選べ。解答番号は  ～  。

(あ) 七転八倒

色々な災難や色々な欠点のこと。

九死に一生を得るようなこと。

七回前転し、八回倒れること。

転げまわってもだえ苦しむこと。

何回失敗しても起き上がること。

(い) こづきまわす

筆先を振り上げて怒ること。

なにやかやといじめること。

言葉じりをとらえること。

すこしもてあそぶこと。

しつこくつけねらうこと。

(う) 逃げ口上

38

困難や責任などからのがれようとする無責任な態度。

相手から逃げようとしてその準備を万端整えること。

逃げても追いつかれそうになって相手をふりきること。

事件から逃げるために現場からすがたを消すこと。

責任逃れをしようとして言う言いのがれの言葉のこと。

(え) 姿を掻き消す

39

一瞬のうちに見えなくなること。

体格をまったく変えてしまうこと。

存在そのものを否定してしまつこと。

ありようを一変して現れること。

容姿を新しくつくりかえること。

(お) 公平無私

40

公平であるが私的感情をまじえること。

公平でありかつ私的感情をまじえないこと。

公平であるように私的感情を無視すること。

公平とはいえないが私的感情をまじえること。

公平ではなく私的感情をまじえないこと。

問3

文中空欄

a

c

に入る語句として最も適当なものを、次の各群の 〱 のうちからそれぞれ一つずつ

つ選べ。解答番号は

41

43

a 41

分配方式

采配方式

支配方式

依託方式

行動方式

b 42

小説の脇役

小説の主人公

小説の作者

小説の読者

小説の評論家

c 43

しかし

また

その上で

さらに

実は



( ) 「そこにいるのは神になりたかったただの人間」とはどのような人間を指しているか。最も適当なものを次の ( ) のうちから一つ選べ。解答番号は  。

小説のなかで主人公である女の一生をまるで神のように操っている男。

小説のなかでまるで神のように自由気ままに行動する主人公の女。

小説のなかで主人公である女の一生をまるで神のように操っている小説家。

小説のなかで生きる主人公の女を操っているギリシアの神になりたい人間。

小説のなかで生きる主人公の女を操っているユダヤの神になりたい人間。

( ) 「高圧の世界」の対極にある世界はどのような世界なのか。 **適当でないものを次の ( )** のうちから一つ選べ。解答番号は  。

近代小説や通俗小説にあらわれる普通人のすれ違いが仕掛けられている世界。

メロドラマの主人公のように本質的な運命も日常の振る舞いも用意された世界。

親から引き継いだ性格・能力・財産などの運命が登場以前より決まっている世界。

英雄や巨人が1パーセントの差ともいえる偶然によって決し分けられる世界。

ただの人間がでてきて一見自由な意志で選択し、行動するように見せる世界。

問6 二重傍線部A「その安心するということが大事なので、これもカタルシスの一種だとすれば、それは用意した涙を予定通りハイ泄する快感に關係が有るにちがいない。」とはどのような意味か。最も適當なものを次の 〃 のうちから一つ選べ。

解答番号は 

49
----

 。

読者は、女の運命を追いながら女の一生を自らの人生と照らし合わせて読んでいくので、女が死んだときにまるで自分が死んだように涙すること。

読者の小説に対する興味と要求はドラマチックな女の一生であり、その次々と起こる事件のひとつひとつに涙する体験が快感であること。

読者が没入する小説の主人公の女が運命にもてあそばれ涙を流し自分の人生を呪うそのさまは、読者にとっては自分を浄化する快感であること。

読者にとって自分を捉えてはなさなかった小説が予想どおりの筋書きではなかったという満足が、読者の心の浄化作用をもたらすのだということ。

読者は、女の死が自分の興味や予想通りの結末になったという安心と、女に同情する涙が読者の心の快感を得るひとつの手段になるということ。

問7 本文で述べられている筆者の主張として**適当でないもの**を、次の 〃 のうちから一つ選べ。解答番号は 50。

女の一生を好んで書く作家は、小説に書かれる女が「運命」によっていたが最後、死で終わる筋書きを作るのだが、それは作家にとっても読者にとってもカタルシスであろう。

運命を専門に扱うギリシアの女神モイラは、四つの分配法により運命を分配するので、作者がモイラのような神になるのであれば、女の一生は割り当てられた運命そのものによって漂うことになるだろう。

意地の悪い読者は、主人公の運命の糸を操る運命の神（作者）の楽しみを探り始めるのであるから、作者は読者に分りやすいように運命の糸さばきをみせるべきだろう。

作者が主人公の運命を操る手付きのひとつに「すれ違い」があるのだが、それが多ければ多いほどいわゆる通俗小説にあられる通俗性の要素が高いということだろう。

バルザックなどの昔の小説家は、いわゆるホン弄されたりそれと闘ったりする運命ではなく、もっと本質的な性格や能力などを登場人物に割り当てることに気配りしたのである。